レッスン21 https://1drv.ms/p/s!AqwMg77z1HIVkjhXbUeClWCK3wbM?e=jlIhH0

↑このレッスンのパワーポイントです。クリックしてお使いください。

A. お祈りの暗唱と暗記

このレッスンと次の3つのレッスンで、セクション19で提案されているように、クラスの冒頭で暗記しているお祈りを暗唱します。あなたと、数人の子どもがオープニングのお祈りをした後、以下のお祈りを紹介します。これは子どもたちが1年目に暗記する最後のお祈りです。

おお、お優しい主よ。私は幼(おさな)い子どもであります。御国に迎え入れることにより私を高め給え。世俗的(せぞくてき)な私を、天来(てんらい)の者となし給え。下界(げかい)に属(ぞく)する私を、天上(てんじょう)の領域(りょういき)に属するものとなし給え。消沈(しょうちん)した私を、輝(かがや)かしい者となし給え。物質的な私を、精神的になし給え。そして、あなたの無限(むげん)のご恩恵(おんけい)を明らかにすることを私に許し給え。

あなたは力に満ち、愛情あふれる御方におわします。[123]

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Radiance

E A
As we reflect the light that shines from above
B E
Our hearts will radiate with kindness and love

E A
As we are joyful, illumined and bright
B E
All those around will feel the warmth of His light

CHORUS:

E A
O Son! O Son of Being!

B E
Thou art My lamp and My light is in thee!

E A
O Son! O Son of Being!

B E
Thou art My lamp and My light is in thee!

The love of God never ceases to flow
As we arise to serve its brightness will grow
Don't hesitate! Just radiate! With all of your might
Till each and every heart is filled with His light

CHORUS *(with last line repeated)*

C. 引用文の暗記

このレッスンで子どもたちが暗記する、輝くことという資質に関する引用文は、次のように説明することができるでしょう。

神の愛の光は、私たちの心に光り続けます。この光が明るくなればなるほど、心は神の愛で輝きます。神の知識の光 -- 神の偉大さ、神の栄光についての知識 -- それは、私たちの目を明るくします。そして、私たちの寛大な行いと親切な言葉をとおして、愛と知識の光は輝き出ます。周りの人々は、私たちの喜びの輝きに感動します。輝くことという資質の重要性を忘れないようにするため、以下の引用文の暗記が役に立つでしょう。

おお実在の子よ！
汝(なんじ)はわがランプであり、わが光は汝のうちにある。汝それより汝の輝きを得(え)よ。そしてわれ以外に何ものをも求(もと)むるな。[124]

＜輝き＞

1. ティレル君が目覚めた時、部屋はお日様の光でいっぱいでした。ティレル君は太陽の輝きに迎えられてうれしくなりました。

2. サントス夫人はみんなを自分の家族のように愛して、いつも誰にでも寛大で、優しく、みんなをお世話します。彼女の心の愛は彼女に会うすべての人々に感じられ、彼らに喜びをもたらします。皆が、彼女の輝きに感動させられます。

＜得る＞ (☆: 英語にはない)

1. 牛乳は牛から得ることができます。

2. 知識を学校の先生と本、お父さんとお母さんなどから得る。

＜求める＞

1. ひなどりが卵からかえると、おやどりはひなのために餌を探しに行きます。母鳥は餌を求めます。

2. 学校はすべての生徒を特別な遠足に招待しています。参加するには保護者の許可が必要です。子どもたちは、両親からの承認を求められます。

D. お話

ドロシー・ベイカーは少女のとき、光栄にもアブドル・バハに会うことができました。あなた方はこの女性について、いつか、もっと詳しく学ぶでしょう。ドロシーの祖母はアブドル・バハが西洋を旅されたとき、ドロシーを連れてアブドル・バハに会いに行ったのです。ドロシーがこれまで訪れたことのない、その家に着いたとき、たくさんの人々が集まっている部屋に通されました。彼らは、アブドル・バハのお話を待っている間、小さな声で行儀よくしゃべっていました。ドロシーと祖母が部屋に入ったとき、師は微笑んで、自分のそばに座るようにと少女をお招きになりました。彼女はそうしたいと思いつつも不安を感じながら、お部屋を横切りました。じっと床を見つめながら、他のお客さんたちの間を注意深く通り過ぎて、アブドル・バハの足元近くの足台にたどり着きました。

アブドル・バハが話し始められると、ドロシーは下を向いて自分の黒い靴を見つめていました。彼女は師を見る勇気がありませんでしたが、すぐにその怖れは消えました。彼女はアブドル・バハの愛に満ちた存在の温かさに引かれました。師の輝きは磁石のようでした。思わず、ドロシーは両手で頬を抱え、肘を膝について、アブドル・バハの方を向き、その輝かしいお顔を見つめていたのです。

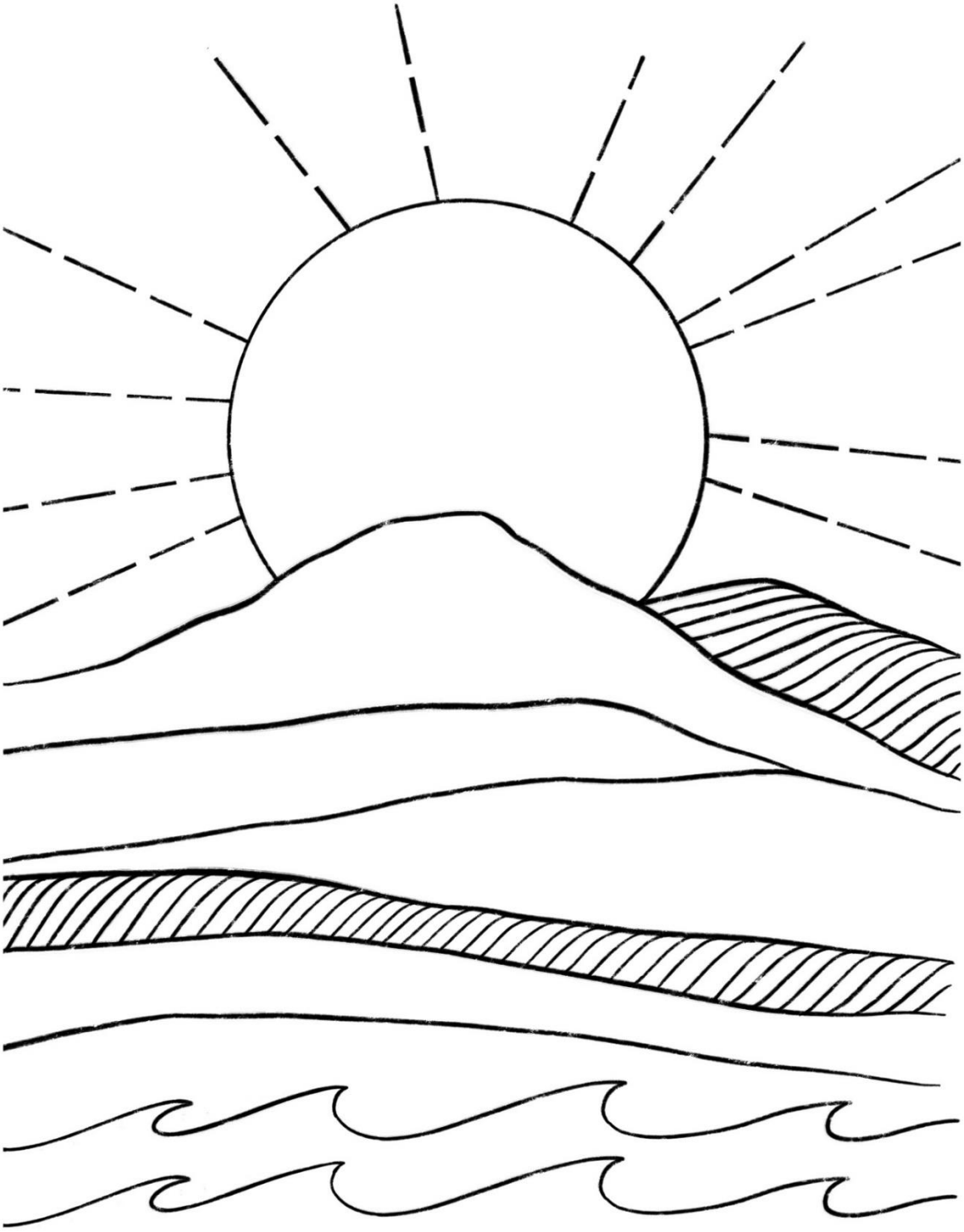
ドロシーは、その日、アブドル・バハが何をお話されたかまったく思い出せませんでした。思い出すのは師の優しいお顔、彼の流れる調べのようなお声、彼の存在の暖かさだけでした。彼の優しい眼差しは、神の精神世界について彼女に話しているようでした。やがて、彼女の心に灯された神の愛はとても強く、ついに彼女はアブドル・バハに手紙を書く決心をしました。彼女は、師と、師のお父様、バハオラの大業に仕えることを許して欲しいと求めました。彼女への師の返事で、アブドル・バハは彼女の目標を褒め、神の恩恵を保証し、彼女の希望がかなうよう望んでいると言われました。そして、実際に、ドロシーは神と人類に仕えることにその生涯を捧げたのです。

E. ゲーム: 同じように動く

子どもたちは二人一組になり、互いに向き合います。一人の子が簡単な動きをすると相手の子が鏡に映ったようにその動きをします。2、3分したら、役柄を入れ替えます。顔の表情を真似することもできるでしょう。次に、各ペアの一人がもう一人の後ろに立ち、前の子が動くと後ろの子がその影となって動きます。

F. ぬり絵 21

G. 終わりの祈り



おお実在の子よ！

汝はわがランプであり、わが光は汝のうちにある。汝それより汝の輝きを得よ。

そしてわれ以外に何ものをも求むるな。